

精神障害者地域支援部会実施報告について

令和5年第3回広島市障害者自立支援協議会の資料として配布済

1 概要

精神障害者地域支援部会(以下「市部会」という)は、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」(以下「にも包括」という)の構築を目指し、平成30年度に設置した専門部会である。コロナ禍で一時期は会議の回数が増えたものの、昨年度から年2回開催している。

昨年度の広島市障害者自立支援協議会で報告して以降に開催した、「令和4年度第2回部会」「令和5年度第1回部会」の協議内容と、「にも包括」構築のための取組状況について報告する。

2 令和4年度第2回部会開催概要

- (1) 日 時 令和5年3月23日(木)19時00分～20時30分
- (2) 場 所 中区地域福祉センター5階 大会議室
- (3) 出席部会員 11名中9名出席
- (4) 事務局 精神保健福祉課、精神保健福祉センター
- (5) 主な協議事項

協議1 令和4年度第1回精神障害者地域支援部会の協議内容について

- ・前回の部会の協議事項や意見をまとめ、事務局としての対応案を説明

協議2 令和4年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取組報告

- ・医療・保健・福祉関係者を対象とした、「にも包括」構築連携会議の報告
- ・区「話し合いの場」のコアメンバーに向けての説明や研修会の開催報告
- ・区「話し合いの場」の取組状況の報告・課題共有のための、統一した「取組シート」について

協議3 令和5年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取組計画

- ・「にも包括」構築連携会議の開催
- ・区「話し合いの場」の取組シートの活用と、コアメンバーの区「話し合いの場」への参加

- (6) 部会における主な意見等

【部会員】

- ・退院後支援の効果については、同意者だけでなく不同意者についても、措置での再入院率を出すことができれば、退院後支援を実施した人と実施していない人の比較ができるので、効果判定に繋がるのではないかと。
- ・区「話し合いの場」との連携について、何らかの形で当事者にも参加してもらおうのがよいのではないかと。
- ・「にも」包括の普及を図るために、区「話し合いの場」では、高齢分野で開催される会議と合同開催したり、医師会経由で医師に声をかけたりしている。
- ・市として「にも包括」の広報をするのであれば、医師を対象とした勉強会や精神科医会などで「にも包括」について報告する機会をもらうこともよいのではないかと。
- ・(部会員の)参加していない区の区「話し合いの場」でどのような取り組みが行われているのか、共有出来たら自分の活動する区の取組の参考になるので、活動を報告する場があってもいいのではないかと。
- ・司法分野やその他支援者に対しての勉強会もできたらよい。
- ・精神障害者が利用できるサービスを知る方法として、介護保険のサービスのように、誰でも見ることができて情報が集約されているものがあるとよいのではないかと。

【今後の方針】

- ・退院後支援の効果判定について、部会での意見を踏まえて再度データを提示する。
- ・部会員の意見を踏まえ、次年度の取組を行う。

3 令和5年度第1回部会開催概要

- (1) 日 時 令和5年9月25日(月)18時30分～20時00分
- (2) 場 所 中区地域福祉センター5階 大会議室
- (3) 出席部会員 11名中11名出席
- (4) 事務局 精神保健福祉課、精神保健福祉センター
- (5) 主な協議事項

協議1 令和5年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

- ・前回の部会の協議事項や意見をまとめ、事務局としての対応案を説明
- ・「にも包括」構築連携会議の今年度の開催内容について報告

- ・市部会のコアメンバーへの医療関係者の追加について
- 協議2 今後の課題抽出について
 - ・自立支援協議会と市部会、市部会のコアメンバー会議、区「話し合いの場」、区「話し合いの場」情報交換会、「にも包括」構築連携会議のそれぞれの会議体の立ち位置や、「にも包括」構築における区の課題の吸い上げがどのように行われるかのイメージ図について説明。
 - ・市部会のコアメンバーが、区「話し合いの場」に参加することについて
 - ・区「話し合いの場」の活動についての情報交換や、課題を市部会に吸い上げるための区「話し合いの場」情報交換会の開催計画について説明。
- 協議3 措置入院者の退院後支援の実績集計と検証結果について
 - ・前回の部会での意見を踏まえ、再集計・再検証し直した結果を報告
 - ・瀬野川病院の前正部会員より、瀬野川病院の退院後支援の実績について報告

(6) 部会における主な意見等

【部会員】

- ・コアメンバーに医療関係者を追加するとしたら、医師が直接出る方が、相談員から咀嚼された内容を医師が聞くより話が進みやすくなると思う。
- ・医療関係者といっても、職種によって立場や役割が違うので、それぞれの立場の方でできれば出ていただいた方が、仕組みを作っていく上ではよいのではないか。
- ・市部会で「にも包括」構築について話し合っているが、ここで話し合われることと現場の間にはまだ溝があるように感じている。
- ・市部会で出た課題は、自立支援協議会全体会上がっていかなければ、市全体の課題として認識してもらえず、具体の解決には結びつかない仕組みになっている。今年度は（協議2の課題吸い上げの）イメージ図をより具体的に形にしていくという話でいいか。
- ・退院後支援の実績集計と検証結果について、今回の報告では、退院後支援を行うことで再措置入院になる人を減らせるということは言えるのではないかと思う。ただ、退院後支援の何がプラスに働いたのかということについては、今回の分析では明らかになっていない。引き続き地域での暮らしを続ける上で何が役立つか、どんな方法が効果的か明らかにできると、支援のポイントやどこに予算を使うと効果的かが見えていいと思う。
- ・退院後支援で今後質的評価のために実施するというアンケートで、是非具体的に何がよかったかを知りたい。

【今後の方針】

- ・部会員の意見を踏まえ、今年度の取組を行う。

4 今年度の取組

(1) 「にも包括」構築に向けた連携会議の開催

医療機関の地域の保健・福祉関係機関との連携に対する関心を高め、「にも包括」への理解を深めるとともに、医療と地域保健・福祉の連携の強化を行うこと、医療機関が抱えている課題や受け皿である地域（保健・福祉）へのニーズを明らかにし、連携体制整備につなげることを目的に、精神科病床を有する市内14病院の相談員や看護師等の医療関係者を対象に会議を開催する。

(2) 区「話し合いの場」情報交換会（のちに、区「話し合いの場」担当者会議と名称変更）の開催

区「話し合いの場」の情報交換を通して、区「話し合いの場」で上がっている課題を出し合い、共通する課題を市の課題として、市部会で検討できるようにする。

(3) コアメンバーの区「話し合いの場」への参加と、取組シートの活用

コアメンバーが区「話し合いの場」へ参加し情報を共有することで、参加した区へ他の区の様子も踏まえて情報提供をしたり、客観的に良いところなどをフィードバックしたりできる。また、取組シートを活用し、市部会等で取組状況や課題を共有する。

5 今後の検討の進め方

「精神障害者が受け入れられやすく、必要ときに適切に相談・支援と精神科医療に繋がる地域」を目指すという方針のもと、顔の見える関係づくりを引き続き行う中で具体的な課題を吸い上げ、市の課題として検討できるよう体制を整えていくこととする。